2025年度

（令和 7 年度）

社会福祉法人ありんこ

# 事業報告書

# 2025年度 社会福祉法人ありんこ 事業報告

## 目 次

1．法人の理念……2
2．情勢展望……2
3．法人事業……2
4．事業方針の具体化……3
(1)「法人の組織体制の強化と今後の事業展開」……3
(2) 「支援力」を高める……3
(3)「職員の資質向上、人材確保と育成」……3
(4)「地域貢献」……3
5．法人運営……3
(1) 法人役員……3
(2) 法人の事業と利用者の定員数・現員数および職員数 （令和８年３月末時点）……4
(3) 理事会・評議員会等開催……4
(4) 法人会議計画……5
(5) 研修……5
(6) 委員会・担当者会……6
(7) 域における公益的な取り組みについて……7
6.事業部別 事業計画……7
6-1．日中活動支援部……7
(1) 重点課題……7
(2) 各課……7
(3) その他の活動……10
(4) スケジュール……11
（5） 施設・設備整備計画……12
6-2．居宅生活支援部……13
(1) 重点課題……13
(2) 各課……13
(3) その他の活動……14
(4) スケジュール……15
(5) 施設・設備整備計画実施状況……15
6-3．相談支援部……16
(1) 各課……16
6-4．事務管理部……17

# 2025 年度 社会福祉法人ありんこ 事業報告

## Ⅰ. 法人の理念

**私たちは、諸々の活動を通じ、誰をも受け入れることができる共生社会の実現を目指し、より良い地域社会の構築に寄与していきます**

障がい者福祉の形態は、昭和 50 年代初期の経済不安定期を境とし、障がい者を保護する保護福祉から自立を促す自立福祉へと様変わりしました。また、国際的にも障害者権利条約の批准がなされ、今日に至っております。

このような社会情勢を背景に、障がい者の自立を推進する為、法律や制度が整備されておりますが、受け入れる社会環境の状況に疑問を感ずるところもあります。

障がい者の自立に大切な基本的人権や自由が尊重される「受け入れ」があり、「自立に向けた向上心と能力」が培われてこそ、障がい者の自立がなされると思います。

## 2. 情勢展望

2025年の世界情勢は、ウクライナや中東など紛争の深刻な状況が依然続いており、アメリカの第2次トランプ政権への交代は、「世界秩序の転換」と言われ、日本の経済や安全保障などに大きな影響を与えています。そして、利用者・職員の生活、法人の運営においても、物価高騰という形で影響を及ぼしています。

自然災害については、全国各地で多数の地震が発生しており、災害への対応力を高める取り組みを、今後さらに進めて行く必要性を感じます。

## 3. 法人事業

2025年度は、法人職員研修を行う機会を毎月設け、職員の意識改革や支援の質の向上を目指し、職員の研鑽に努めてまいりました。「誰もが住み慣れた地域で安心して暮らすことができる共生社会の実現を目指し、地域に根差し貢献する」という法人の理念や、「利用者の意志及び人格を尊重し、利用者の立場に立った適正な障害福祉サービスを提供する」という福祉職に携わる職員としての心構えについて理解し、事業計画の読み合わせを通して、2025年度に法人が目指す事業について職員間で共有をしました。

利用者と家族の高齢化に伴う課題については、地域の社会資源が乏しい状況ですが、利用者や家族の将来的な不安を軽減し、安心して暮らすことができるように、引き続き法人として取り組んでまいります。

人材確保・育成・定着に向けた取り組みについては、福祉職の賃上げが政府の対策として進められていますが、物価高騰や最低賃金の引き上げに追いつかない状況であり、他産業との賃金格差が大きいと言われています。このような現状の中で、職員がやりがいを感じモチベーション高く仕事を継続できるよう、職員間のコミュニケーションを心がけ、働きやすい風通しの良い職場環境を整えていくことが必要であることを感じました。個々の職員の仕事に対する想いを聴く機会を設け、職種や経験に応じた研修プログラムを通して研鑽することができるよう引き続き取り組んでまいります。

## 4. 事業方針の具体化

### (1)「法人の組織体制の強化と今後の事業展開」

各種会議(各事業部職員会議、課長会議、運営会議)を毎月行い、各種委員会を隔月の定例開催とし、各事業や委員会活動の円滑な運営を進めてまいりました。

法人の事業展開について、中長期計画の策定を進めることについては、具体的に取り組むことができなかったので、次年度に取り組んでまいります。

### (2) 「支援力」を高める

「ありんこ職員の心構え12か条」を各事業部職員会議前に唱和し、一人ひとりの利用者の障害特性や生活歴も含めた生活状況を把握し、個々に応じた対応を職員間で共有し支援することを目指してきました。

また、法人職員研修、各事業部で行う研修、外部研修を受講した職員からの報告会等を通して、利用者の立場に立った支援を行うために、研修で得たことを職員間で共有し、日々の支援に活かすことができるように努めてまいりました。

引き続き、利用者の支援においては、利用者・保護者・関係機関等との連携を図り、地域のなかで信頼を得られる法人となることを目指してまいります。。

### (3)「職員の資質向上、人材確保と育成」

法人職員研修を通して、他事業の職員と交流し、意見交換をする機会をもつことができたことは、職員から良い評価を得ることができました。次年度は、個々の職員のキャリアに応じた研修プログラムをもとに、研鑽できる体制を整え、職務に対するやりがいやモチベーションの向上を図り、サービスの質の向上につなげることができるように、引き続き取り組んでまいります。

2025年度は、新入職員として4名の非常勤職員を迎えましたが、正規職員1名と4名の非常勤職員(日中活動支援部2名、居宅生活支援部2名)が年度内で退職をしました。職員の人材確保、育成、定着については、引き続き取り組んでまいります。

### (4)「地域貢献」

地域貢献活動については、コロナ禍の影響により5年間開催を見送ってきたありんこ祭りを、地元の大明見地区の方に呼びかけ、「ありんこマルシェ」という形で開催しました。

## 5. 法人運営

### (1) 法人役員

① 理事・監事
- 定数　理事 6 ～ 8名　　監事 2名
- 任期　令和7年7月 ～ 令和9年の定時評議員会終了まで

② 評議員
- 定数　7 ～ 9名
- 任期　令和7年7月 ～ 令和 11 年の定時評議員会終了まで

③ 評議員選任・解任委員会
- 定数　外部委員 3名　事務局 1名
- 任期　令和7年7月 ～ 令和 11 年の定時評議員会終了まで

④ 法人事務局員　２名

(2) 法人の事業と利用者の定員数・現員数および職員数　（令和８年３月末時点）

<table>
<tr><th colspan="2" rowspan="2">事業部</th><th colspan="2">利用者数（名）</th><th colspan="3">職員数（名）</th></tr>
<tr><th>定員<br>（名 / 床）</th><th>現員<br>（登録者数）</th><th>常勤</th><th>非常勤</th><th>合計</th></tr>
<tr><td rowspan="4">日中活動<br>支援部</td><td>自立訓練<br>（生活訓練）事業</td><td>6</td><td>0</td><td rowspan="4">5 ②</td><td rowspan="4">12</td><td rowspan="4">17 ②</td></tr>
<tr><td>就労移行支援事業</td><td>6</td><td>2</td></tr>
<tr><td>就労定着支援事業</td><td>−</td><td>0</td></tr>
<tr><td>就労継続支援Ｂ型</td><td>40</td><td>35</td></tr>
<tr><td rowspan="3">居宅生活<br>支援部</td><td>共同生活援助<br>（GHあさひ）</td><td>男性 5</td><td>5</td><td rowspan="2">1 ①</td><td rowspan="2">6</td><td rowspan="2">7 ①</td></tr>
<tr><td>共同生活援助<br>（GHそよかぜ）</td><td>女性 7</td><td>6</td></tr>
<tr><td>短期入所事業</td><td>3</td><td>25</td><td>④</td><td></td><td>④</td></tr>
<tr><td rowspan="4">相談支援部</td><td>指定一般</td><td>−</td><td>0</td><td rowspan="3">1</td><td rowspan="3">1</td><td rowspan="3">2</td></tr>
<tr><td>指定特定<br>（障がい者）</td><td>−</td><td>140</td></tr>
<tr><td>指定特定<br>（障がい児）</td><td>−</td><td>16</td></tr>
<tr><td>障がい者<br>就業・生活支援センター<br>ありす</td><td>−</td><td>382</td><td>3 ①</td><td></td><td>3 ①</td></tr>
<tr><td>事務管理部</td><td></td><td>−</td><td>−</td><td>2</td><td></td><td>2</td></tr>
</table>

※ ○ に数字は、兼任

(3) 理事会・評議員会等開催

① 理事会

・ 第 1 回 2025 年 7 月 18 日

2024年度事業報告・決算承認理事会・役員改選

・ 第 2 回 2025 年 7 月 30 日

理事長・業務執行理事の選任

理事長・業務執行理事 職務の報告

・ 第 3 回 2025 年 10 月 29 日

理事長・業務執行理事の職務報告

・ 第４回 2026 年３月 19 日

令和７年度第１次補正予算

令和８年度事業計画

令和８年度収支予算

理事長・業務執行理事の職務報告

② 評議員会

・ 第１回 2025 年７月 30 日

計算書類等の承認、財産目録の承認

役員等改選

・ 第２回 2026 年３月 27 日

2026 年度事業計画・予算承認評議員会

③ 評議員選任・解任委員会

・ 第１回 2025 年７月 23 日

評議員の選任・解任について

(4) 法人会議計画

① 運営会議

毎月第1木曜日を定例開催とし、業務執行理事と各事業部部長により、事業計画に基づいた法人運営の適正化を図り、理事会に付議することを目的とし協議を行いました。

② 課長会議

毎月第4木曜日を定例開催とし、各事業部課長により、情報共有や現場での困りごと等、運営会議に付議することを目的とし協議を行いました。

(5) 研修

① 法人職員研修

４月 令和７年度事業計画　育児・介護休暇制度について ほか

８月 法人の理念について・法人運営について

② 虐待防止研修

12 月 18 日 虐待防止研修 「障害者虐待防止法の理解と対応」

グループワークによる事例検討

③ 身体拘束適正化研修

６月 19 日 身体拘束適正化研修

坂村裕輔講師（山梨県障害者権利擁護センター）

「障害者虐待の防止と身体拘束の廃止のために」

④ 安全衛生研修

11 月 20 日 感染症対策研修

「感染性胃腸炎の対策について」 講師：富士東部保健所地域保健課

１月 22 日　感染症 BCP（業務継続計画）の読み合わせ

２月 19 日　感染症 BCP（業務継続計画）の実働訓練 「手洗いの方法」

⑤ 防災・防犯研修

10 月 16 日　防犯研修　講師：富士吉田警察署 安全対策課

1 月 22 日　自然災害 BCP（業務継続計画）の読み合わせ

2 月 19 日　自然災害 BCP（業務継続計画）の実動訓練 「災害用トイレの体験」

⑥ プチ研修会

7 月 グループワーク テーマ「職員の困りごと」

⑦ 外部研修

・ サービス管理責任者更新研修
・ 福祉施設の人材育成や施設運営について ～ 地域とのつながりに着目して ～
・ 健康保険委員・年金委員 研修　ほか

### (6) 委員会・担当者会

① 虐待防止・身体拘束適正化委員会

虐待防止委員会は、偶数月の第1火曜日を定期会議日とし、利用者の尊厳と人権を守る観点から、適正な支援が実施され、利用者の生活と活動を妨げることのないよう、虐待の防止、身体拘束の適正化を図ることを目的に開催しました。2025年度は、「職員セルフチェック（ありんこ Ver）」を毎月各事業部職員会議時に配布し、個々の職員が日々の支援について振り返ることができるように取り組みました。

身体拘束適正化委員会は、事案（3件）に応じて随時開催し、身体拘束の適正化について検討しました。

② 防災・防犯委員会

防災・防犯委員会は、奇数月の第 4 水曜日を定例会議日とし、利用者と職員の安全を守るために、各種訓練や研修を通して、防災、防犯に対する意識や対応力を高めることを目的として開催しました。

③ 安全衛生委員会

安全衛生委員会は、偶数月の第4水曜日を定期会議日とし、利用者と職員が健康で安心して働くことができるように、快適な職場環境づくりと感染症対策、衛生面の周知と徹底を図ることを目的として開催しました。

④ 研修委員会

令和 7 年度は、「基本に帰る」をテーマとし、毎月第 3 木曜日に法定研修も含め、法人職員全員参加型の研修を行いました。新たな取り組みとして、事業計画を職員に共有しました。職員の資質向上および交流の場として、好評いただきました。また、働き方にとらわれず、学びの場を提供するため、E-ラーニングの導入を進めています。

⑤ 入退所委員会

入所者、退所者について随時開催し、その入所及び退所の理由が妥当であるかを、情報共有し検討しました。令和7年度は、日中活動支援部の入所者3名と退所者7名、居宅生活支援部1名の退所者について会議を開催しました。

⑥ 車輌管理担当者

安全運転管理者が中心となり、職員のアルコールチェックの実施、公用車の整備や定期点検の実施の確認等を行い、安全運転の推進や交通事故防止に取り組みました。

⑦ 広報担当者

一年を通して法人ホームページの更新・管理業務を継続的に実施しました。機関誌の発行については、企画・準備を進めたものの、発行には至りませんでした。

⑧ 働き方相談担当者

育児・介護休業規程、個人情報保護やハラスメントについての指針等の周知を図るため、職員面談を行いました。随時、働き方についての相談を受け付け、職員の意向を取り入れた労働条件の取り決めを行いました。

(7) 域における公益的な取り組みについて

① 日中活動支援部が地域（大明見地区）のごみ拾いを行いました。
② 地域の企業と合同でのリサイクル回収活動と、月1回の清掃活動を行いました。
③ 地域交流のためのイベント（10 月12日「ありんこマルシェ2025」）を開催しました。
④ 地域行事（市民夏祭り、大明見夏祭り、旭町さくらまつり・夏祭り）に参加しました。
⑤ 介護等体験（6名）、保育実習（2名）、昭和医科大学初年次体験実習（11名）、富士北稜高校交流学習(15 名)等の受け入れをしました。

## 6. 事業部別 事業計画

### 6-1. 日中活動支援部

(1) 重点課題

○ 利用者の理解を深めます。

・ 作業時間・休憩時間・送迎時などの日常の様子を記録作成時や職員会議等で共有しました。改善策として具体的な意見が出ると、やってみようと行動に移し、成果が表れた例もありました。
・ 個別支援計画に関してはモニタリング後の職員会議で報告、検討会議を行いました。

○ 人材育成に努めます。

職員の人材育成に努めると計画していましたが、年度内で3名の職員が退職した為、計画通りに進めることができませんでした。退職の原因分析を行い、職員の定着を重視し、働きやすい職場、環境作りを整備していくことが重要課題です。

○ 利用者への虐待防止の徹底に努めます。

利用者への虐待防止の徹底を重点目標として掲げていましたが、年度途中において利用者支援の一部に対し虐待、ネグレクトがあり、市による聞き取り調査が実施されました。今後も職員一人一人が虐待に関する職員の意識向上の強化をして再発防止に取り組んでいきます。

(2) 各課

① 自立訓練（生活訓練）課

事業を休止していましたが、まだ目処が立ちません。

② 就労移行・定着支援課

－ 利用者数 －

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 就労移行 | 7 | 7 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 4 | 3 | 3 | 2 | 2 |
| 就労定着 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 0 | 0 |

(ア) 重点課題

○ 利用者理解を深め、1人1人に合った支援を提供していきます。

モニタリング等の内容（利用者・家族の意向、課題等）について、職員会議などの場だけでなく、日々の支援の中で職員間で積極的にコミュニケーションを取り、情報を共有、利用者一人一人の意向や特性に合わせ統一した支援を提供できるよう努めました。

○ 一般就労に向け、実践的な訓練に力を入れます。

会社見学は5社、就職に向けた職場実習は4社実施するなど、一般就労を想定し、実践的な訓練に力を入れました。

○ 一般就労後の定着支援に力を入れます。

就職者数は2名。就職後も安定した勤務が継続するよう、障害者就業・生活支援センター、ハローワーク、山梨障害者職業センターなどの専門機関と密に連携を計り、定期的な職場訪問や来所相談等を丁寧に行い、定着支援に力を入れました。

③ 就労継続支援B型課

－ 利用者数 および 工賃 －

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 利用者数 | 37 | 37 | 36 | 36 | 36 | 36 | 36 | 37 |
| 延べ利用者数 | 792 | 757 | 727 | 808 | 658 | 711 | 770 | 648 |
| 開所日 | 26 | 26 | 24 | 28 | 25 | 25 | 28 | 28 |
| 工賃 | - | 417,312 | 391,430 | 427,056 | 397,594 | 389,107 | 396,236 | 366,666 |

| | 冬季賞与 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 合計 | 平均 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 利用者数 | - | 37 | 37 | 36 | 36 | | |
| 延べ利用者数 | - | 638 | 686 | 634 | 720 | 8,549 | 27.1人/月 |
| 開所日 | - | 25 | 25 | 25 | 30 | 315 | |
| 工賃 | 614,010 | 348,891 | 377,612 | 366,036 | 380,115<br>1,067,062 | 5,939,127 | 18,196円/月 |

(ｱ) 重点課題

○ 個別支援計画をもとに、様々な作業や活動を提供し、達成感ややりがい、働く喜びを感じられるよう支援します。

・ 職員のミーティング時間を設け、取引先からの要望や作業工程を確認し、ミスが起こらないよう取り組みました。また、利用者の情報を共有し、共通した支援を行いました。
・ 利用者が自信を持って作業に臨めるように褒める声掛けを心がけました。
・ 利用者の特性に合わせ、治具や絵カードを用いて、分かりやすく作業内容を説明しました。

○ 利用者が安全に作業や活動に取り組めるよう環境に配慮します。

・ 避難経路を確保するために資材の置き場所に配慮しました。
・ 歩行不安な利用者は起居しやすい場所で作業していただきました。
・ 利用者の特性や相性を考慮し、作業室を別にしたり、サポートさかえを利用してトラブルが起きないよう取り組みました。
・ 作業室では配置についても気を配り、バランスを考えながら取り組みましたが、利用者の突発的な行動に対応できず、トラブルになってしまった事案がありました。都度、職員間で話し合い、対策を講じて「やってみる」を実践しました。
・ 毎日、検温と健康チェック表の記入を行い、利用者の健康管理に努めました。
・ 感染予防対策として、密にならない作業環境作りを行いました。
・ 帰所時や給水時、給食前には、うがい手洗いの声掛けを行ない、感染予防が習慣化されるよう取り組みました。

○ 利用者の工賃向上に向けて取り組みます。

職員の関係者などに声かけし、捕虫テープの内職やシール貼りの作業をいただき、捕虫テープは安定的に作業をいただいています。また、作業の方法など連絡を密に取り、質の高い製品づくりに努めました。

○ 事務の効率化を図ります。

・ 今年度はパソコン導入が難しかったのですが、令和8年度には、2台のパソコンを導入できる運びとなっています。
・ 8月、10月と2名の職員が退職し、日中は作業の検品等の支援に追われたため、諸記録の入力が終業時間内にできないケースがありました。

(ｲ) 各班の仕事内容と売り上げ

・ 作業班　　　目標金額　3,900,000 円 → 売上　3,914,515 円

主となる取引先が自動車部品の製造ですが、米中の覇権紛争やロシア、ウクライナ紛争の影響を少なからず受けていたように思われ、内職の量が減っていると感じられました。そのような状況下ですが、請け負った作業は念入りにチェックを行い、大きな苦情もなく制度の高い製品を作ることができました。

・ 施設外就労班　　目標金額　 2,150,000 円 → 売上　1,978,100 円

利用者は、施設外で作業することにやりがいを感じ、楽しんで作業していました。また、あんずの森のリネン交換作業が、B 班から3名、就労移行から3名にて行われていましたが、就労移行の利用者が就職活動に専念するため、作業量を半数に減らさなければならず、売り上げに影響がでました。

・ 販売班　　　　　目標金額　 1,080,000 円 → 売上　1,136,080 円

イベント出店の焼きそばの収益とQスタに置く手芸品などが、インバウンドの影響を受けて集客数が増え、売り上げの伸びにつながったようです。

・ お菓子班　　　　目標金額　 1,642,000 円 → 売上　1,886,716 円

インバウンドの影響を受け、道の駅や Q スタの集客数が増えたことで、売り上げ増加につながったと感じます。利用者もやりがいをもってお菓子作りに取り組み、日ごろの衛星管理を徹底し、事故なく作業に従事することができました。

・ 厨房班　　　　　目標金額　 1,100,000 円 → 売上　1,443,444 円

原材料が高騰しているので、随時仕入れの見直しを行い、見栄えや季節感を取り入れた献立作りに取り組みました。利用者から「おいしかったです。」などの声をいただき、やりがいを感じています。また、西桂町の関係先からコンスタントにお弁当の注文をいただき、売り上げ増加につながりました。

厨房で作業する職員や、利用者には衛生管理を徹底し、加熱調理の時間計測、生肉、生魚の取り扱いについて充分注意を払い、事故なく従事することができました。

・ ありんどう班　　目標金額　3,200,000円　→ 売上　3,173,795 円

原材料の高騰の影響を受けていますが、原価率を抑えるとともに、商品の値上げを行ったことで、売り上げへの影響は最小限に抑えられたように思います。今後も原材料の値上げが見込まれるので、メニューの工夫や仕入れの見直しを随時行っていきたいと思います。

### (3) その他の活動

① 支援計画

ご本人とご家族のニーズや意向を汲み取り、ご本人のやる気を引き出せる個別目標と支援計画を担当支援員等の意見を踏まえて作成し、ご本人とご家族に同意していただいた上で実践してきました。

定期的にモニタリング、評価、検証を行い、計画の変更や見直しについてもご本人とご家族の同意のもとに行いました。

② 健康管理

・ 健康診断を12月1日に実施しました。
・ 感染症に対する予防として本年度は利用者が数名、インフルエンザに感染しましたが、ありんこ内で感染が拡がることはありませんでした。

③ 昼食

嗜好調査を行いました。結果をもとに利用者が好きな食べ物を月・木のメニューに取り入れました。

④ 教養・娯楽・行事

・ お花見　研修旅行　ボウリング大会　忘年会

・ 障害者スポーツ大会へ参加しました。　フライングディスク　陸上　ボウリング

・ 障害者援護の会、ありんこ保護者会、友の会が主催するイベントの支援や協力、または合同開催のイベントへの参加及び協力として、ありんこマルシェ・新年互例会に参加しました。

・ 地域のイベントや他施設との交流、研修会への参加

春和祭（富士吉田市立看護専門学校学園祭）　Pal-pal 祭　あんずの森祭り

富士ふれあいの村祭り　ヨハネ祭　麦の穂交流会　富士吉田太陽の集い　いずみ主催交流会

⑤ 防災・防犯対策

・ 防災訓練　消防計画に基づき、火災訓練と地震避難訓練を実施しました。

・ 防犯訓練　富士吉田警察署から来所していただき、不審者対応などの講義を受けました。

⑥ BCP 訓練

防犯防災委員会・安全衛生委員会それぞれで BCP の周知と確認の訓練を行いました。

⑦ 地域との連携

・ 都留文科大学・大原専門学校・昭和大学から実習生を受け入れました。

・ ふじざくら支援学校・桃花台学園から実習生を受け入れました。

⑧ 職員研修・会議

研修に参加した職員が職員会議で研修内容を共有しました。

(4) スケジュール

① １日のスケジュール

| | | | |
|---|---|---|---|
| 9:00 | ラジオ体操・全体朝礼 | 12:30 | ① 午後の作業開始 |
| 9:10 | 課・係ごとの朝の会 | 13:00 | ② 午後の作業開始 |
| | 午前の作業 | 13:30 | ③ 午後の作業開始 |
| 11:30 | 昼食・昼休み ①（継続 B） | 15:30 | 掃除 |
| 12:00 | 昼食・昼休み ②（就労移行） | 15:45 | 課・係ごとの帰りの会 |
| 12:30 | 昼食・昼休み ③（お菓子班・厨房班） | 16:00 | 帰宅 |

② 年間スケジュール

| 月 | 活動予定 | 月 | 活動予定 |
|---|---|---|---|
| 4 | フライングディスク大会（19 日）<br>お花見会<br>春和祭（26日）<br>開所日（29 日　昭和の日） | 10 | 富士吉田太陽の集いへ参加（4 日）<br>ヨハネ祭・れんげツツジ下草刈り（5 日）<br>ありんこマルシェ（12 日） |
| 5 | 開所日（6 日　こどもの日振替休日）<br>障害者スポーツ大会陸上・FD（24 日） | 11 | 開所日（3 日　文化の日）<br>研修旅行（7 日　静岡方面）<br>多文化フェスタ出店<br>（24日　勤労感謝の日振替休日） |
| 6 | 防災避難訓練（25日） | 12 | 健康診断（1 日）<br>いずみ主催ボウリング大会（14 日）<br>忘年会・仕事納め（26 日） |
| 7 | Palpal 祭出店参加（12日）<br>開所日（21 日　海の日）<br>富士吉田市民祭りに出店参加（26日）<br>あんずの森祭り出店参加（27日） | 1 | 開所日（12 日　成人の日）<br>新年互例会（25 日） |
| 8 | 開所日（11日　山の日）<br>大明見夏祭り出店参加（14日）<br>農福マルシェ BELL 出店（24日） | 2 | 初午祭（1 日）<br>開所日（11日　建国記念日）<br>開所日（23日　天皇誕生日）<br>避難訓練（火災想定 24 日） |
| 9 | 障害者文化展へ出展<br>ふれあいの村祭り出店参加（11 日）<br>開所日（15 日　敬老の日）<br>開所日（23日　秋分の日） | 3 | スポーツフェスタ<br>開所日（20 日　春分の日）<br>納会（31 日） |

**（5）施設・設備整備計画**

・ 厨房の冷凍冷蔵庫は第 6 次省エネ・再エネ設備導入加速事業費補助金を申請し確定しました。
（令和8年度の事業）

・ 玄関自動ドアは保留。

・ 蛍光灯を LED 蛍光灯に変えていきますが、引き続き補助金の情報招集をします。

## 6-2. 居宅生活支援部

- 利用者数 -

① グループホームあさひ（定員５名）

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 入居者 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 |
| 退居者 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 合 計 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 |

② グループホームそよかぜ（定員7名）

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 入居者 | 7 | 7 | 7 | 7 | 7 | 7 | 7 | 7 | 7 | 6 | 6 | 6 |
| 退居者 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 |
| 合 計 | 7 | 7 | 7 | 7 | 7 | 7 | 7 | 7 | 7 | 6 | 6 | 6 |

○ 支給決定市町村　富士吉田市（9名）　都留市（2名）　上野原市（1名）

### (1) 重点課題

① 利用者の健康管理や身体機能の維持をします。

ご家庭や日中活動先、主治医などの医療機関、訪問看護師などの専門職と連携し、体調管理や健康を維持した生活を送ることができるよう支援をしました。

② 利用者が主体の体制作りを行います。

個々のニーズが反映される個別支援計画を立て、生活上の支援が必要な方については支援手順書を作成し、職員間で共有し支援をしました。

年間計画に沿って行事を行いました。利用者の方が楽しみにしているバーベキュー交流会やクリスマス会、年度末食事会など、意向を確認しながら進め、利用者と職員が交流する良い機会となりました。

③ 生活しやすい環境づくりを目指します

感染症予防を意識しながら快適に生活を送ることができるよう努めてきました。9月にコロナウイルスの感染者が発生しましたが、感染症マニュアルに沿った居室での対応をとることにより、感染を広げることなく、ご本人も体調を回復することができました。

住環境の整備については、5月に、赤い羽根共同募金による手すりの設置をしました。

グループホームそよかぜの2階浴室の改修について、補助金申請をしましたが通りませんでした。次年度に改めて補助金申請を行います。

### (2) 各課

① 居宅支援課

男性のグループホームあさひと女性のグループホームそよかぜにおいて、一人一人の生活に目を向け体調管理、衛生管理、環境整備に気を配り、本人の思いに沿った支援ができるように、関係機関と連携し、職員間で情報共有しながら支援をしてきました。利用者の動向については、女性の利用者が1名入院のため退所しました。

② 短期入所課

再開することを目指してきましたが、職員体制が整わず、1年間休止をしました。

## (3) その他の活動

① 支援計画

利用者の日々の生活状況について世話人の職員に聴き取りを行いモニタリングに反映しました。利用者の意向に沿った個別支援計画を立てることを心がけ、職員間で共有し支援をしてきました。

② 健康管理

毎日朝晩の体温チェックや体調確認を行いました。

健康診断の結果をチェックし、体重の増減や受診の必要性を確認し支援を行いました。

③ 教養・娯楽・行事

地域のお祭り（春祭り・夏祭り）や防災訓練などの行事に参加しました。

生活の楽しみとなる季節行事（バーベキュー、クリスマス会、年度末食事会等）やカラオケなど、利用者の意向を確認しながら行いました。

④ 消防計画

6月に地震想定、12月に火災を想定し、グループホームあさひ・そよかぜで、それぞれ避難訓練を行いました。

⑤ BCP 訓練

法人職員研修として、1月に BCP（業務継続計画）の読み合わせをし、2月に実地訓練（災害用トイレの体験）を行いました。

⑥ 地域との連携

- 9月7日の富士吉田市の防災訓練に地域の方と参加をしました。
- グループホームあさひでは、4月13日の旭町春祭りと、8月10日の夏祭りに、出店（たこ焼き、炊き込みご飯）参加をしました
- 3月にグループホーム地域連携推進会議を、利用者代表、家族代表、地域の民生委員や自治会長の方、福祉や経営に知見のある方を構成メンバーとして、開催しました。
  （3月26日そよかぜ、3月27日あさひ）

⑦ 職員研修・会議

毎月第3木曜日の法人職員研修の後、職員会議を行いました。日頃顔を合わせる機会が少ない職員が意見交換し情報共有する貴重な機会となりました。法人職員研修も他事業の職員と交流する良い機会となりました。

⑧ 事故発生時の取り組み

人命に関わる事故については、消防署・警察署に通報し対応しました。

⑨ 感染症発生時に備えた平時からの対応

感染症や受診が必要な体調不良時には、医療機関の指示に従い、受診同行しました。

(4) スケジュール

① １日のスケジュール

| | |
|---|---|
| 6:30～ | 起床 |
| 7:00～ | 朝食 |
| 8:10～ | 出勤 |
| 9:00～16:00 | 事業所で日中活動 |
| 16:00～ | 帰所 |
| 16:30～ | 入浴 |
| 18:00～ | 夕食 |
| 19:00～ | 入浴 |
| 21:00～ | 自室にて就寝 |

② 年間活動報告

| | |
|---|---|
| 4月 | あさひ春祭り出店参加（13 日）<br>消防設備点検（26日） |
| 5月 | あさひ・そよかぜ合同バーベキュー交流会（6日） |
| 6月 | 防災訓練（24日そよかぜ・26日あさひ） |
| 8月 | あさひ夏祭り出店参加（10日） |
| 9月 | 地域防災訓練参加（7日） |
| 10 月 | ありんこイベント参加（12日）<br>消防設備点検（25日） |
| 12月 | 防災訓練（16日そよかぜ・17日あさひ）<br>クリスマス会（26日） |
| 1月 | ありんこ新年互礼会参加（25日） |
| 3月 | 地域連携推進会議（26日そよかぜ　27日あさひ）<br>年度末食事会（25日） |

※ 利用者誕生日会、職員会議（毎月 1 回）

(5) 施設・設備整備計画実施状況

・ GH あさひ　　・・・ トイレの増設工事について補助金申請をする予定でしたが、行いませんでした。

・ GH そよかぜ ・・・

　・ 5 月赤い羽根共同募金にて玄関・浴室・トイレに手すりを設置しました。

　・ 2階浴室の改修工事について補助金申請をしましたが、通りませんでした。

## 6-3. 相談支援部

### (1) 各課

① 相談支援課

富士北麓自立支援協議会や基幹相談支援センターの事例検討会、山梨県自立支援協議会への参加、さらに相談支援従事者現任者研修などに協力し、相談支援の環境整備や関係機関との連携構築に尽力してきました。

しかし、限られた地域資源という状況は変わらず、グループホーム等を利用する際には、他圏域や県外の資源を活用せざるを得ない現状です。

また、児童の利用者や発達障がいのある利用者については、適宜サービス利用につなぐことができましたが、知識向上のための研修には参加の機会を確保することが困難でした。

加算の取得については、対象となるかを検討し、取得に向けて取り組みました。

【令和7年度の実績と目標値】

| | 令和７年度<br>目標値 | 令和７年度<br>実績 | 令和６年度<br>実績 |
|---|---|---|---|
| 契約者数 | 164人 | 156人 | 154人 |
| モニタリング件数 | 260件 | 294件 | 293件 |
| 計画作成件数 | 100件 | 103件 | 99件 |

② 就業・生活支援課

障がいのある方が自分らしく働き続けられるよう、一人ひとりの気持ちや状況に合わせた支援を行いました。ハローワークと協力しながら企業にも働きかけ、職場実習の調整や就職につながるサポートを進めました。結果として、実習・就職ともに、前年を上回る実績を上げることができました。

就職後の定着支援では、働く環境や仕事内容の調整、職場での人間関係の悩みなど、続けて働くために必要な相談に対応することができました。特に精神障がいや発達障がいのある方には、体調やコミュニケーションの課題に合わせて個別にフォローを行い、安心して働けるよう支援しました。

移動相談では、ニーズの掘り起こしやハローワークとの連携につなげることを目的に取り組みました。その結果、当事者だけでなく企業にも少しずつ活用していただけるようになりました。次年度は、利用機会のさらなる向上を目指し、広報・周知の取り組みを強化していきます。

また、在職者交流会では、勉強会やレクリエーションを通して参加者同士が交流できる場をつくりました。仲間と話すことで気持ちが楽になったり、働く意欲が高まったりする様子が見られ、ストレス解消にもつながっています。

これらの取り組みにより、障がいのある方が地域で安心して働き続けられるよう、支援体制の充実に努めました。

本年度は、職員の働きやすい環境づくりと若手職員の配属準備を進める予定でしたが、十分に取り組むことができませんでした。

勤務環境の改善や若手受け入れ体制の整備は実施できず、次年度に持ち越しとなりました。

【令和7年度の実績と目標値】

| | 令和 7 年度<br>目標値 | 令和 7 年度<br>実績 | 令和 6 年度<br>実績 |
|---|---|---|---|
| 相談支援件数 | 2,800件 | 2,109件 | 2,160件 |
| 就職件数 | 50件 | 46件 | 38件 |
| 職場実習件数 | 30件 | 33件 | 24件 |

| | 令和7年度<br>実施回数 | 令和7年度<br>延べ人数 | 令和6年度<br>延べ人数 |
|---|---|---|---|
| 移動相談 | 35回 | 43人 | 42人 |
| 在職者交流会 | 4回 | 55人 | 97人<br>※7 回開催 |

③ 職場適応援助者事業

本年度は、職員体制が整わなかったため、事業を休止した状態が続きました。

事業再開に向けて予定していた職場適応援助者養成研修の受講体制づくりや、資格保有者のスキルアップ研修の受講準備についても、実施することができませんでした。そのため、これらの取り組みは次年度に持ち越しとなりました。

## 6-4. 事務管理部

① 会計管理の正確・確実性の向上

会計業務において、各部との連携を行い、会計に関連する手順書を作成、周知し、スムーズに処理ができる体制を整えました。

会計処理においては、業務分担を見直すことで、業務に集中できる環境が整いつつあります。

② 持続可能な体制の検討

- 事務員の増員に備え、事務管理部のレイアウト変更をしました。人事異動にも対応したレイアウトになりました。
- 業務分担の見直しを行い、それぞれの専門性、学ぶべきことを明確にすることができました。さらにダブルチェックを徹底し、ミスを未然に防ぐことができています。担当業務においては、チェックリスト・作業手順書等を作成、業務の標準化を進めています。
- BCPの施策の1つとして、サーバー機のリース終了(2027年2月)にあわせて、クラウドへの移行について、調査をはじめました。また、移行スケジュール、維持、継続費用等の詳細について検討していきます。

③ 「働き方改革」への取り組み

・ 山梨県働き方改革アドバイザー派遣を利用し、就業規則・給与規程の改定を行いました。人事評価制度について、専門的なアドバイスをいただき、新たな人事評価制度を令和８年度にスタートさせます。 また、複雑な労務管理に加え、労働基準法の改定や国の施策等に対応できるよう、専門的なアドバイスをいただける社労士との契約を検討中です。
・ 法人内のノートPC（特に日中活動支援部）のリースを見直しました。新たに入職された職員へのPC導入も完了し、さらなるICT化を進めています。
・ 給与システムの導入が終わり、それに伴い、連動する勤怠システムを選定中です。
・ 働き方相談窓口として、育児・介護休業等についての周知を図るため、チラシを配布しました。併せて職員面談を行い、職員の想いを聞きました。それを法人運営にどう活かすかを模索中です。

④ コンプライアンス体制の整備

個人情報保護およびハラスメント規程および指針を整備。どう浸透させていくかが課題です。